

## 平成 25 年度 魚沼市生徒指導部 活動報告

執筆者 魚沼市立広神西小学校 上村 勤

※ 本年度も、魚沼市小教研の「生徒指導部」としての活動はありませんでしたので、レポートの形式を変えてご報告します。

### 【魚沼市内の小学校で今年度取り組んだ内容について】

#### 1 特徴的な取組内容

(1) 小中連携あいさつ運動 (I小⇔K中、S小⇔S中、N小⇔H中)

- ・毎月の定例日 (1・15日) や、強調週間を決めて数日間連続で行った。
- ・双方の学校の玄関や地域の公民館前で行うことで、地域住民にも PR 効果があった。
- ・S小では、数名の児童代表と中学生が一緒に行った。
- ・参加する中学生は、その小学校の卒業生が中心。



(2) 保護者や地域住民による学校玄関でのあいさつ運動 (I小、H小、N小、K小)

- ・PTA 役員や希望参加の保護者、地域の民生委員等が参加してくださった。
- ・児童会の生活委員会児童が代表として一緒に運動を行った。

(3) 11月の「いじめ見逃しゼロ強調月間」の取組

- ・児童会の担当委員会による「温かいメッセージ」の伝え合い…心温まる言動を付箋紙に書き込み、廊下の大きな掲示板に一人何枚でも添付していった。
- ・全校朝会で生活指導担当教師からの講話や、それに続いて全学級での SST を実施した。
- ・委員会児童によるいじめ根絶にかかわる寸劇や、学級ごとの取組を発表した
- ・家庭でも「温かいメッセージ」について協力を促した。



- ・外部講師による「いじめ根絶」の講話や、人権擁護委員による心温まる本の読み聞かせを行った。

(4) 異年齢集団による仲間づくり

- ・校舎を「巨大双六」にみなし、縦割り班ごとにウォークラリーをした。(S小)
- ・学習発表会の一環として、縦割り班ごとに「ギネス挑戦型出店」を出す。ゲーム内容の相談や準備、当日の「接客」などを学年相応に分担して行った。(N小)
- ・読書旬間に上学年が下学年へ読み聞かせ活動を行った。(U小)



(5) 全校 SST

- ・毎月1回の「全校生活朝会」で SST を実施している。(U小)

#### 2 成果と課題

- (1) 年齢を超えた関わり合いが生まれ、日常的な声掛けができるようになってきた。
- (2) 児童・職員が、いじめについての認識 (定義・対応) を共有することができた。
- (3) 「あいさつ」の重要性を意識して、児童に声掛けをする人が増えてきた。
- (4) 活動がマンネリ化してきた。負担感を増さずに心に響く活動を仕組む必要がある。
- (5) 強調月間が過ぎるとトーンダウンする。継続・発展させる工夫が必要である。

